

事業趣旨

青少年健全育成と生きる力の醸成

現在の日本社会は物質的には豊で便利になりました。子供達もその環境の中で、欲しい物が何でも手に入り、行きたい所へも自由に車で行き、暑さ寒ささえも我慢する必要がなくなっています。また、核家族化が進み兄弟も少ない環境では、昔の様に3世代それぞれが、おもいやりを持って生活するのがあたりまえだった時代とは違ってきています。日々の生活のために、家族の仕事を手伝うことが『お手伝い』という特別な事の様になり、甘やかされて育つ環境が整っています。その事が、自分さえ良ければという個人主義的な考えを助長する状況をつくり、メールやインターネットによる情報交換は、ゲームだけでなく実生活もバーチャルな感覚にし、人間関係も希薄にしています。

結果として、生きる目的や意義を感じる機会や、苦しい状況を自分で克服するといった経験の場が少なくなり、知識としては理解していても、我慢をすることや目的に向かって努力する事の必要性を感じた実体験不足なまま、成長をしています。その事が、イジメや、自殺、ひきこもり、キレるといった社会問題に、少なからず繋がっていると感じます。

人間の内面的な「忍耐力」「協調性」「創造力」「積極性」「自分自身で問題を解決していく力」「優しさ」「たくましさ」等、と言ったことは、言葉や知識として理解するのでは無く体験を通して身につけていくものです。

この事業は、通常的生活とは違った厳しい環境で、子供達が自らの力で4泊5日をかけて100kmを歩ききるという物です。普段5kmも歩いた事の無い子供達は、炎天下の中、暑さと闘いながら1日20km以上を歩きます。顔も知らない仲間と声を掛け合いながら、集団生活での基本ルールを身につけ、学生や社会人のスタッフにサポートされて生活をします。ホームシックになり泣き出す子供も居れば、足の痛みや、疲れで泣き出す子供も居ます。1日目、なんとか耐えた子供も、2日目、3日目になると、肉体的にも精神的にも疲労がピークに達します。しかし、そこには普段甘えられる相手は居ません。その中で初めて自分の力で乗り越える必要性を感じ、忍耐や、仲間やスタッフとの真の心のふれあいを感じるのです。

この事業を通して、学校や家庭ではなかなか実現できない体験教育を実践し、未来を担う子供達の健全育成につなげたいと思います。

地域スタッフの育成とネットワークづくり

人間関係が希薄になったと言われますが、社会をより良く変えていくためには、住民1人ひとりの意識変革が必要となります。社会的な環境変化により、個人主義的になってきているのは、社会人や学生も同じといえます。

この事業に関わる社会人や学生のスタッフには、200時間を超える研修に参加をして

もらい、まずはスタッフ自身が、子供達の手本となる人間力を養っていきます。

また、自分自身の金銭的な損得を左右する学びではなく、他者に対して施す、地域に対して奉仕する、環境に対して配慮する等、自分以外のものに貢献する事が「やりがい」、「生きがい」につながり、心豊かな人生につながります。

事業を通して応用力や判断力、責任感といった様々な人間力を高めていく事が、スタッフ自身の人生をより前向きに変化させるのはもちろんですが、そんな公共心あふれる人々のネットワークが広がっていくことで、様々な社会問題や災害などにも積極的に対応できる地域づくりの一助となることを期待しています。